

史跡 斎宮跡

平成2年度現状変更緊急発掘調査報告

平成3年3月

明和町教育委員会

序

国史跡斎宮跡の宮域西部に斎宮歴史博物館開館以来、それを核として1万2千人の人出でにぎわった斎王まつり、ウォークラリー、ゲートボール大会、写生大会などの催しや遠足など教育の場、憩いの場として多くの人に利用されるようになりました。このように多方面から利用することが多くなり、現状変更も史跡内住民の生活にかかわるもの以外に来訪者への利便性のための案内板や車の誘導標識、植栽なども増えてまいりました。

さて、この報告書は、平成2年度の現状変更の中で事前調査が必要であった8件のうち7件についての結果をまとめたものであります。これらは小規模なものがほとんどであります。斎宮跡の究明に貴重な資料を提供してくれるもので、これらの成果の積み重ねにより、斎宮跡の姿がより明確になることを期待するものであります。

最後になりましたが、発掘調査にご協力いただきました地元の方々や、発掘調査及び報告書の作成にご協力いただいた斎宮歴史博物館並びに関係各位に対して深甚の謝意を表する次第であります。

平成3年3月

明和町教育委員会

教育長 世古 博

例 言

1. 本書は明和町が平成2年度に実施した史跡齋宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。なお、第85-2・4・5・7・8次の発掘調査は、国庫及び県費の補助金の交付を受けて実施したものであり、第85-3・6次の調査は、それぞれの原因者が費用を負担したものである。第85-1次調査については、別途報告書作成の予定である。
2. 調査は明和町が調査主体となり、齋宮歴史博物館調査課及び明和町齋宮跡保存対策室（平成3年1月からは明和町教育委員会齋宮跡対策課）が担当した。
3. 発掘調査・整理及び本書の作成には、齋宮歴史博物館調査課の谷本鋭次、倉田直純、上村安生、御村充生、久保勝正及び明和町教育委員会齋宮跡対策課の中野敦夫があたり、中桐真紀、森脇景子、尾家恵がこれに協力した。
4. 遺構実測図、遺構表示などは、すべて齋宮歴史博物館刊行の調査概報に準じている。

目 次

1. 前 言	1
2. 第85—2次調査	2
3. 第85—3次調査	3
4. 第85—4次調査	4
5. 第85—5次調査	5
6. 第85—6次調査	6
7. 第85—7次調査	7
8. 第85—8次調査	9
(付篇) 現状変更等許可申請と立ち会い調査	14

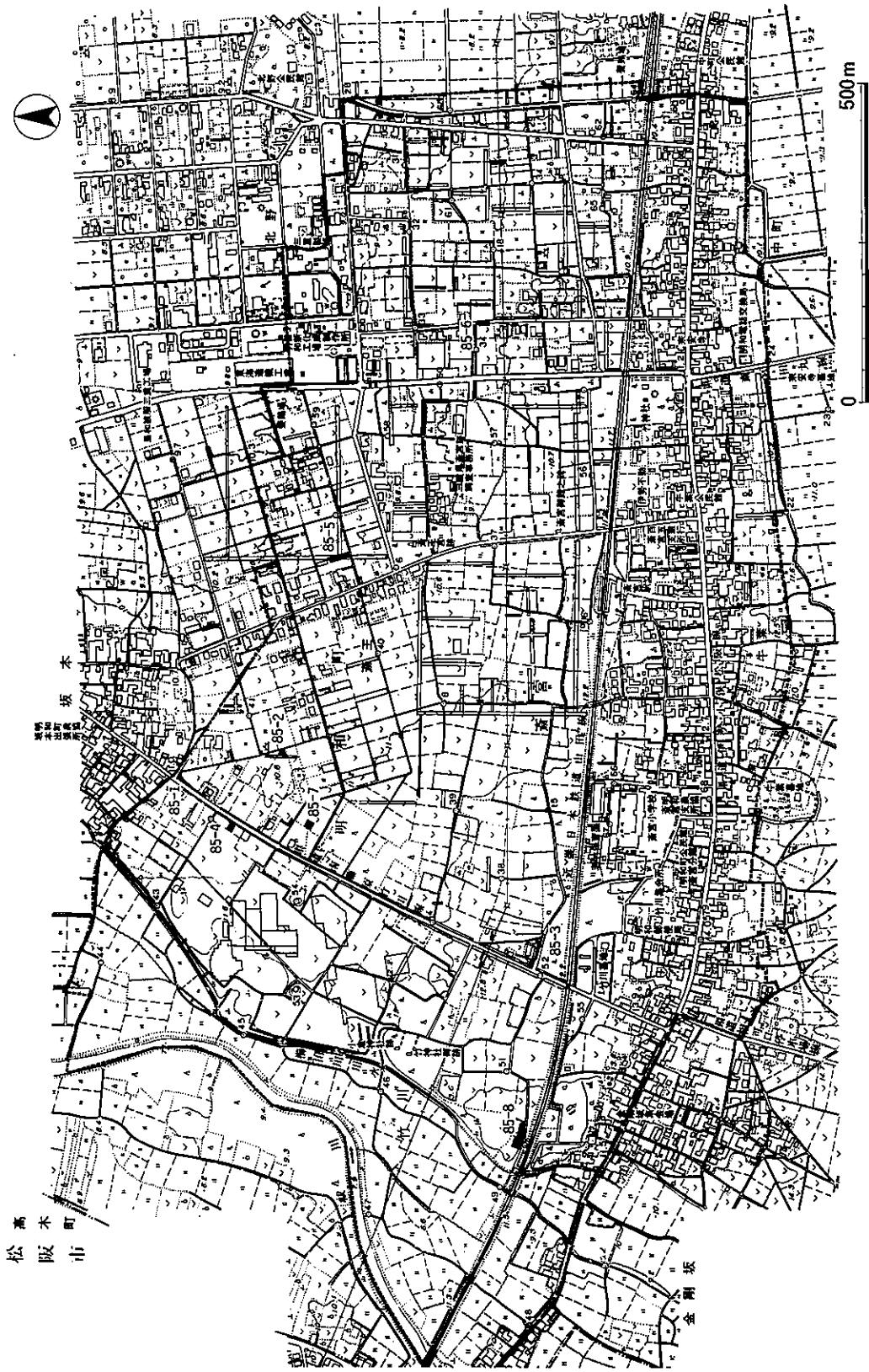


fig. 1 発掘調査箇所位置図 (1 : 10000)

1. 前 言

平成2年度の史跡現状変更等許可申請は58件、その内、事前調査を必要としたものは、前年度からの申請2件を含めて8件であり、その調査面積は、1,397㎡に達した。

その8件のうち5件(内1件は前年度申請)は、個人から申請された住宅の新築やそれを前提とした盛土などに伴うもので、いずれも齋宮跡保存管理計画における第3種保存地区にあたり調査終了後許可され、盛土等で遺構を保護して着工された。残り3件は、史跡内住民の生活環境整備に伴う公共事業であり、1つは、昭和63年度から3カ年にわたって実施してきた県道南藤原・竹川線拡幅工事に伴い本年度終了した。2件目は、第2種保存地区内の既設道路内に防火水槽を設置するもので、計画段階から遺構の密集する地区であることが予想されており設置場所・工法等を再三検討した結果、遺構の少ない区画の道路跡と現在の既設道路とが重複する地点に設置案が決まり、その地点を捜すため発掘調査区を幅広く設定した。調査の結果、一部遺構をさけることができず、さらに調査区を拡張し特殊工法を用いることによって遺構に影響を及ぼすことなく着工できることが可能となった。3件目の町道側溝は、既設道路内に設置するもので掘削時の立ち会いで予想より遺構検出面が浅かったため、工事を一時中断して急遽発掘調査を実施したものである。

以上、8件の調査は小規模で、しかも史跡内各所に点在しているが、中でも祓川を見下す段丘西端部で実施した第85-8次調査は、飛鳥時代に遡る可能性のある柵列やこれと同方向の倉庫を中心とする掘立柱建物群を検出した。これらの建物は、宮域中央、東部で確認されている掘立柱建物群とは棟方向が異なるもので、奈良時代以前の齋宮を考えるうえで貴重な成果が得られた。

年 度	現 状 変 更 申 請 数	発 掘 調 査 件 数	調 査 面 積(㎡)	補 助 金 事 業 調 査 件 数	補 助 金 事 業 調 査 面 積(㎡)
S54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H元	57	16	7,091	9	1,061
H2	58	8	1,397	5	914

2. 第85-2次調査 (6ACA-P)

調査場所 多気郡明和町大字齋宮字古里3279番地
原因 個人住宅の新築
調査主体 明和町
調査担当 齋宮歴史博物館
調査期間 平成2年7月10日～7月30日
調査面積 68㎡

1) はじめに

本調査地は、齋宮歴史博物館の東方約200mに位置する。これまでに、調査地の周辺では、第41次トレンチ調査が実施されており、調査区の西隅でこれと重複する。そのときの調査では調査区の南側を走る道路を挟んだところで、宮域北部を弧状にめぐる鎌倉時代の大溝SD50が確認されている。

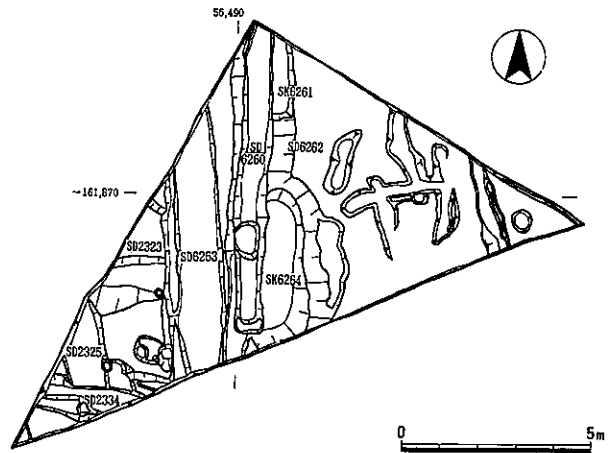


fig. 2 遺構実測図 (1:200)

2) 調査概要

今回検出されたおもな遺構は、南北に延びる溝4、土塚2である。当調査区の東南隅は現代の攪乱を大きく受けており大量の瓦片や陶器片が出土した。

調査区の中央で検出した溝SD6260は、幅約1.0m、深さ約2.0mのもので、SD6262の下層で検出された。遺物はほとんど出土しなかったが、SD6260の上面で検出したSK6261は奈良時代の土師器片と平安時代前期の灰釉陶器の椀片が出土しているので、時期は奈良時代まで遡る可能性がある。

SD6263は、出土した遺物があまりにも細片であったために、詳しい時期決定はできなかった。なお、SD6262の上面で検出したSK6264は、五輪塔が出土しているので、鎌倉時代以降の土塚と考えられる。

3. 第85-3次調査 (6ACJ-B・D)

調査場所	多気郡明和町大字竹川字東裏
原因	町道改良事業による側溝新設
調査主体	明和町
調査担当	斎宮歴史博物館
調査期間	平成2年9月25日～9月27日
調査面積	60㎡

1) はじめに

本調査地は、斎宮歴史博物館の南方約400mに位置する。これまでに本調査地の周辺では、第13-3次、第16-10次、第25-11次調査が実施されている。周辺の地形から本調査地は、小規模な谷を形成する窪地であると考えられた。

工事の施工に際して、工事立ち会いを行った結果、現道より25cm程下で地山に達し、遺構面を損なうおそれがあるため、第85-3次調査として調査を実施した。

2) 調査概要

発掘調査の結果、検出された遺構には時期不明の土坑、溝がある。土坑は深さ70~90cmあり、切りあいがあるが、底の方からビニール等が混入しており、現代の攪乱によるものである。調査区の中央付近で検出されたS D 6265は、幅約50cm、深さ約30cmである。時期決定できる遺物は出土しなかった。

遺物は土坑から土師器高杯の脚部が出土しているほか、土師器杯、皿の小片がある。いずれも奈良時代後期の遺物であるが、攪乱土坑内からの出土である。

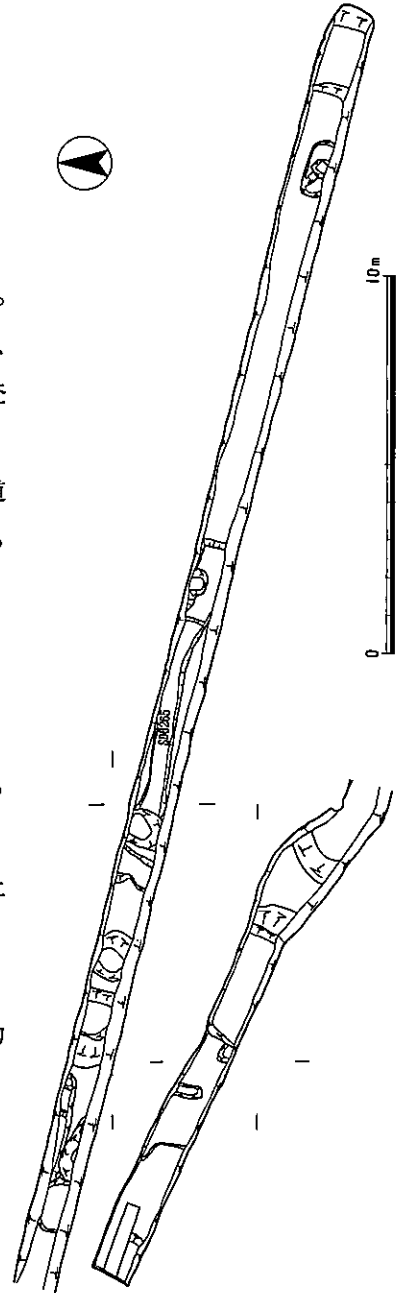


fig. 3 遺構実測図 (1:200)

4. 第85-4次調査 (6ABE)

調査場所	多気郡明和町大字竹川字古里573-2番地
原因	盛土
調査主体	明和町
調査担当	斎宮歴史博物館
調査期間	平成2年11月7日～11月15日
調査面積	95㎡

1) はじめに

本調査地は斎宮歴史博物館の東方約50mに位置する。これまでに本調査地の周辺では、第55-3次、第81-2次調査が実施されている。第55-3次調査では奈良時代の土壇と鎌倉時代の溝を検出している。第81-2次調査では攪乱による土壇を検出したのみである。

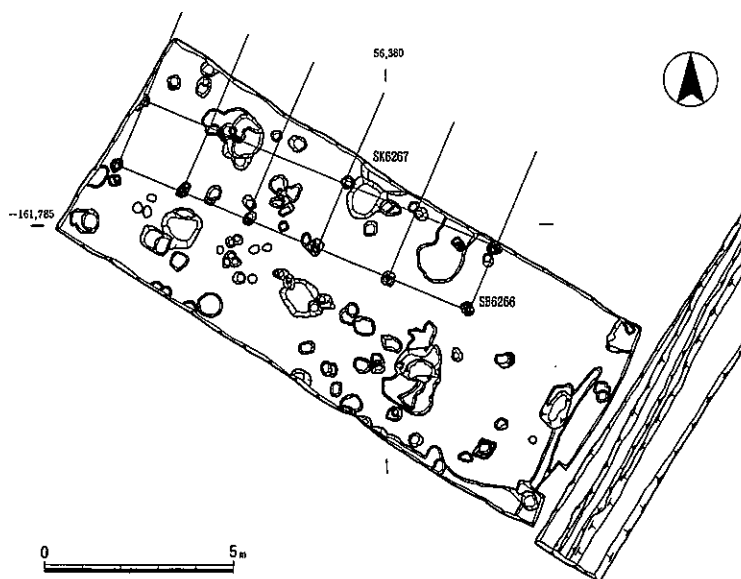


fig. 4 遺構実測図 (1:200)

2) 調査概要

調査の結果、確認された遺構には、平安時代末期の掘立柱建物 S B 6266 および平安時代の土壇 S K 6267 がある。

S B 6266 は東西に 5 間、南北に 2 間を確認している。おそらく総柱建物になると思われる。柱穴は 30cm 前後の円形で、底には 20cm 前後の川原石が見られる。

S K 6267 は調査区の北端に一部が確認されたもので、検出された深さは約 50cm、埋土は黒色土で土師器杯、甕等が出土している。

遺物は包含層からの出土が多く、平安時代前期～末期のものが中心である。奈良時代の包含層は確認されなかった。ほかに鎌倉時代前半の山茶碗等も出土している。

5. 第85-5次調査 (6AED-U)

調査場所	多気郡明和町大字斎宮字楽殿2885-2番地
原因	盛土
調査主体	明和町教育委員会
調査担当	斎宮歴史博物館
調査期間	平成3年1月10日～1月21日
調査面積	260㎡

1) はじめに

本調査地は斎王の森から北方約100mの位置で、宮域の中央北部にあたる。周辺では、北方約50mで第81-14次、すぐ北隣で第81-15次調査、今回の調査区内で第6-1次、第6-3次調査が実施されているが、溝のほかは明確な遺構は確認されていない。今回の調査は、昨年実施した第81-15次調査の調査地の残りの部分を

2) 調査概要

調査区の南方で多数の攪乱土塊と北東から南東方向に延びる溝2を検出した。

S D6268は、第6-1次調査で確認されている幅約2.0m、深さ約0.5m～1.0mの比較的大きな溝である。遺物は、奈良時代の土師器片、須恵器片、瓦片、平安時代中期・末期の土師器片、鎌倉時代の山茶碗片が出土している。

S D6269は、S D6268のすぐ南側を平行して延びる幅約1.0m、深さ約0.2mの溝である。出土遺物は、奈良時代の土師器片、鎌倉時代の土師器片等が少量出土した。いずれも溝の方向は、N30°Wで、これまで確認されている区画の溝とは全く異なるものである。

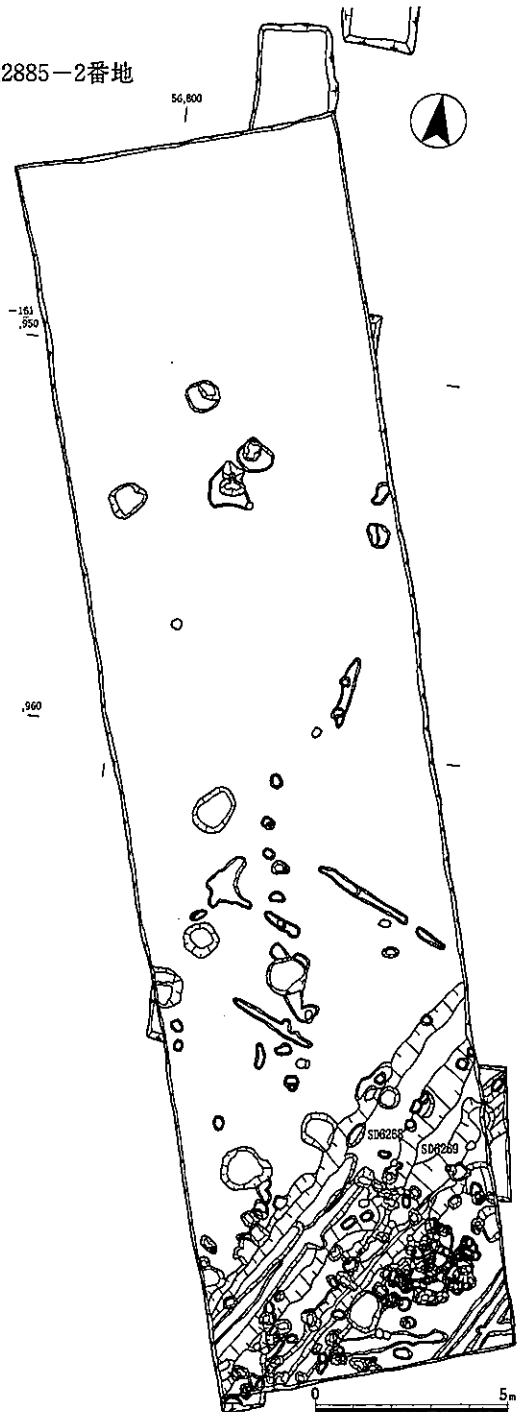


fig. 5 遺構実測図 (1:200)

6. 第85-6次調査 (6AFH-B)

調査場所 多気郡明和町大字齋宮字西加座
 原因 防火水槽の設置
 調査主体 明和町教育委員会
 調査担当 齋宮歴史博物館
 調査期間 平成3年1月21日～2月6日
 調査面積 120㎡

1) はじめに

本調査地は史跡指定地の東、西加座地区に位置し、広域圏道路から60mほど東方を南北に走る町道路線内にあたる。これまでに本調査地の周辺では、すぐ東の畑地で第63次調査が実施されている。この第63次調査では、奈良時代の土坑、平安時代初期～後期にかけての掘立柱建物のほか、各時代の土坑、溝等の遺構を確認している。また、掘立柱建物の多くは、調査区の西寄りに集中する傾向にあり、今回の調査地にも何棟かの建物が続いていることが想定された。

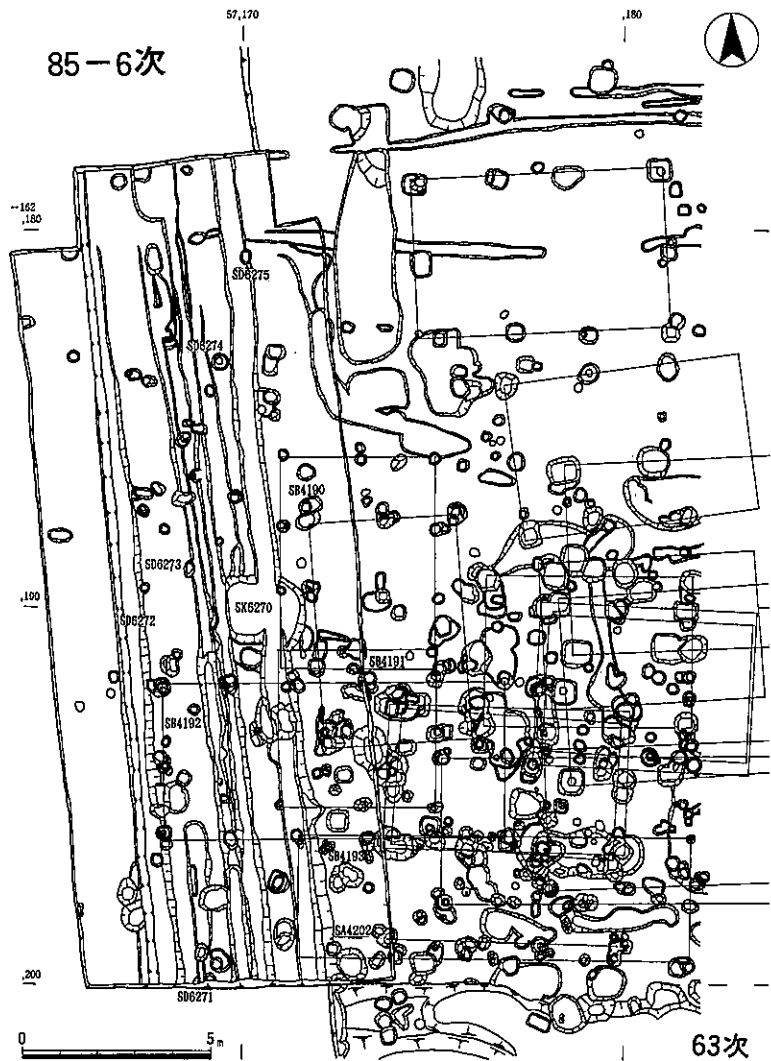


fig. 6 遺構実測図 (1 : 200)

2) 調査概要

今回の調査で確認された遺構には、平安時代の掘立柱建物4、塀1、土塼1、溝1のほか、近世以降と思われる溝3がある。

掘立柱建物はいずれも東側の第63次調査区から西に続いてくる平安時代の建物で、S B4193は初期の5間×2間の東西棟の建物である。S B4190・4149はいずれも前Ⅱ期の建物である。S B4190は3間×2間の南北棟の建物、S B4191は柱間寸法を測っていくと第63次調査から新たに1間分確認され、2間×2間の建物であることが明らかとなった。S B4192は後Ⅰ期の5間×2間の東西棟の建物である。また、前Ⅰ期の塀S A4202は、今回の調査で東西3間である事が確認された。

S K6270は平安時代前Ⅱ期の遺構で土師器杯、皿、甕が出土している。

S D6271は少量の土師器片が出土しているのみで、平安時代には属するが時期の細分は明らかではない。S D6272・6273・6274・6275はいずれも近世以降の陶磁器片や瓦片を埋土に含んでおり、新しい時期の溝と考えられる。なお、今回の調査地には一辺130mの推定方形区画群(F5ブロック)の中央を東西に二分する南北道路の東側溝が検出される可能性が想定されていたが、今回は明確にすることができなかった。

遺物は総じて平安時代のもものが中心となるが、細片が多く、量的にも多くない。

7. 第85-7次調査(6ACB-C)

調査場所	多気郡明和町大字齋宮字塚山3276-3番地他
原因	個人住宅の新築
調査主体	明和町教育委員会
調査担当	齋宮歴史博物館
調査期間	平成3年2月26日～3月8日
調査面積	121㎡

1) はじめに

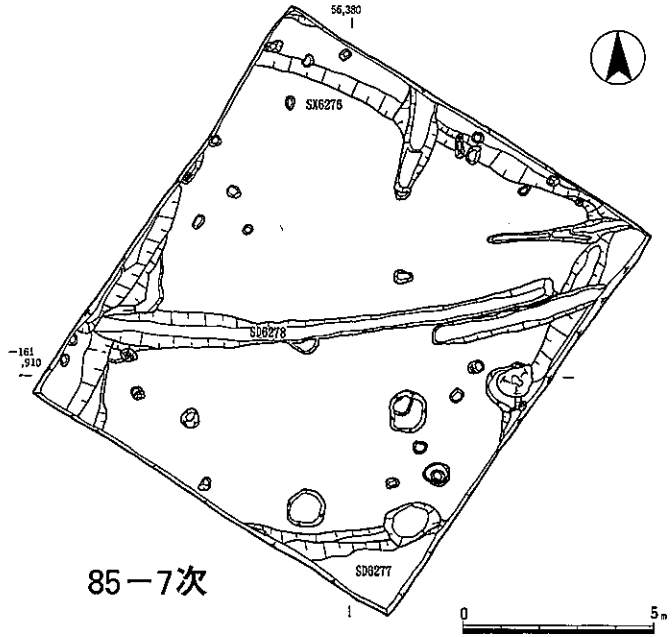
本調査地は齋宮歴史博物館の東50mに位置する。周辺では、第76-1次、第76-6次調査が行われている。第76-6次調査では、古墳の周溝のほか、奈良時代の土塼墓、土塼、平安時代の井戸、鎌倉時代の溝が確認されている。

2) 調査概要

今回の調査で確認された遺構には、弥生時代後期の方形周溝墓 S X 6276、鎌倉時代の大溝 S D 6277、時期不明の溝 S D 6278がある。

S X 6276は、調査区の北、東、西で周溝の一部が検出されている。周溝の幅は西北の角が唯一確認でき、約1.4mを測る。深さは約0.3～0.5mである。埋土は黒色土で、周溝の北西角の最下層から弥生時代後期の甕がほぼ一個体分出土している。

S D 6277は調査区の南隅で検出



85-7次

fig. 7 遺構実測図 (1 : 200)

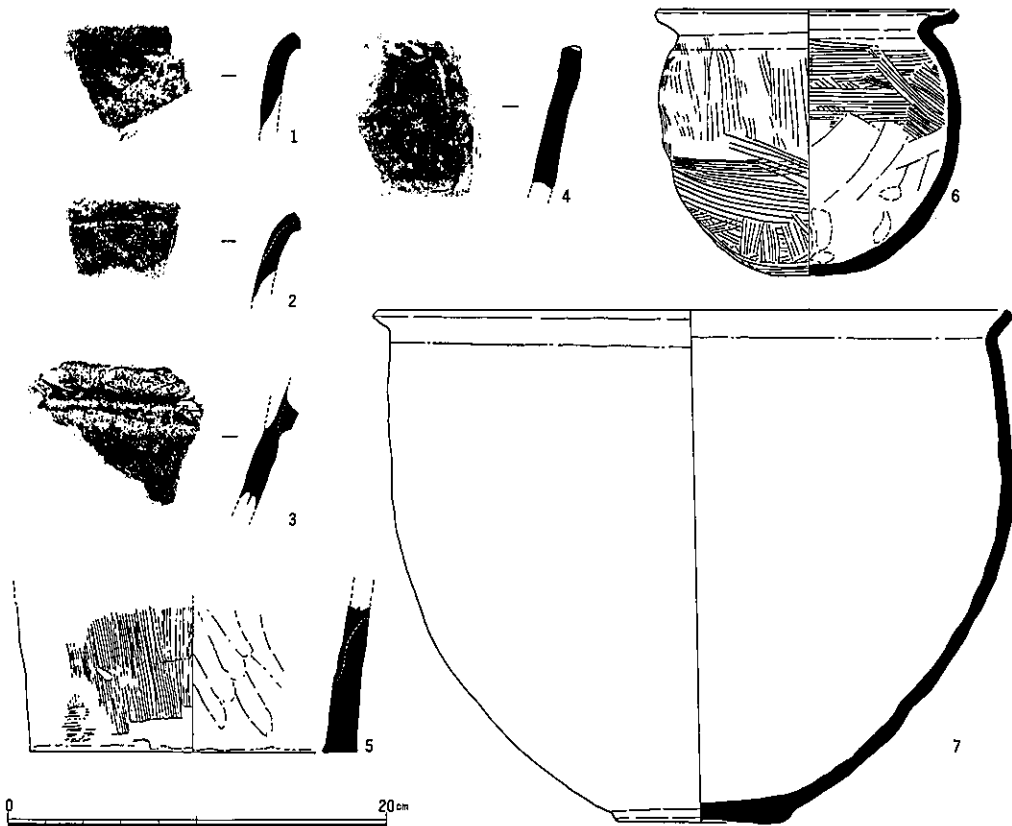


fig. 8 第85-7次遺物実測図 S X 6276; 1~7 (1 : 4)

されている。この溝は、従来から確認されているS D 50にあたる。今回の調査区の南で実施された第76-1次調査で幅約3.0m、深さが約4.0mあることが確認されており、今回は完掘しなかった。このS D 50は史跡西部の古里地区から宮域の北側を通り、さらに史跡東端をめぐる大溝である。今回は遺物はほとんど出土していない。

S D 6278は調査区を斜めに横切る溝で、西が深く、東が浅い。上層には、5～10cmほどの大きさの礫が詰まっている。時期は不明である。

今回の調査での遺物の出土は少ないが、調査区の全体から円筒埴輪の破片が出土している。周辺の調査で削平された古墳が確認されており、それらに伴うものと思われる。

8. 第85-8次調査 (6ABI-N)

調査場所	多気郡明和町大字竹川字中垣内427番地
原因	耕地の天地返し
調査主体	明和町教育委員会
調査担当	斎宮歴史博物館
調査期間	平成3年2月26日～3月30日
調査面積	370㎡

1) はじめに

本調査地は、現道を挟んですぐ南側を近鉄山田線が走り、旧参宮街道から北へ約100m離れた宮域の南西隅の台地縁辺部に位置する。そのすぐ西側は、祓川の形成する沖積平野に面している。周辺では、近鉄線を挟んですぐ南側で第58-4次調査、南東で第16-6次調査、第81-7次調査が実施されている。なかでも、第58-4次調査では、弥生時代中期の竪穴住居1、飛鳥時代の柵列2、掘立柱建物1などが検出されており、今回の調査地は、そのすぐ北側に当たるため、調査前からその関連性が注目された。

2) 調査概要

主な遺構としては、掘立柱建物6、柵列1、竪穴住居2、土塚8、溝7がある。

飛鳥時代の柵列S A 6280は、調査区西部で南北方向に9間分検出した。柱掘形は、一辺0.8～1.0m、深さ0.7mで布掘状を呈する。斎宮跡において、布掘状の掘形をもつ柵列は初例である。柱通りの方向はN33°Eである。なお、調査区の北方のこの柵列のすぐ西側で検出した掘立柱建物S B 6279は、柵列の柱通りと同じ方向を示すので、同時期の可能性がある。おそらく

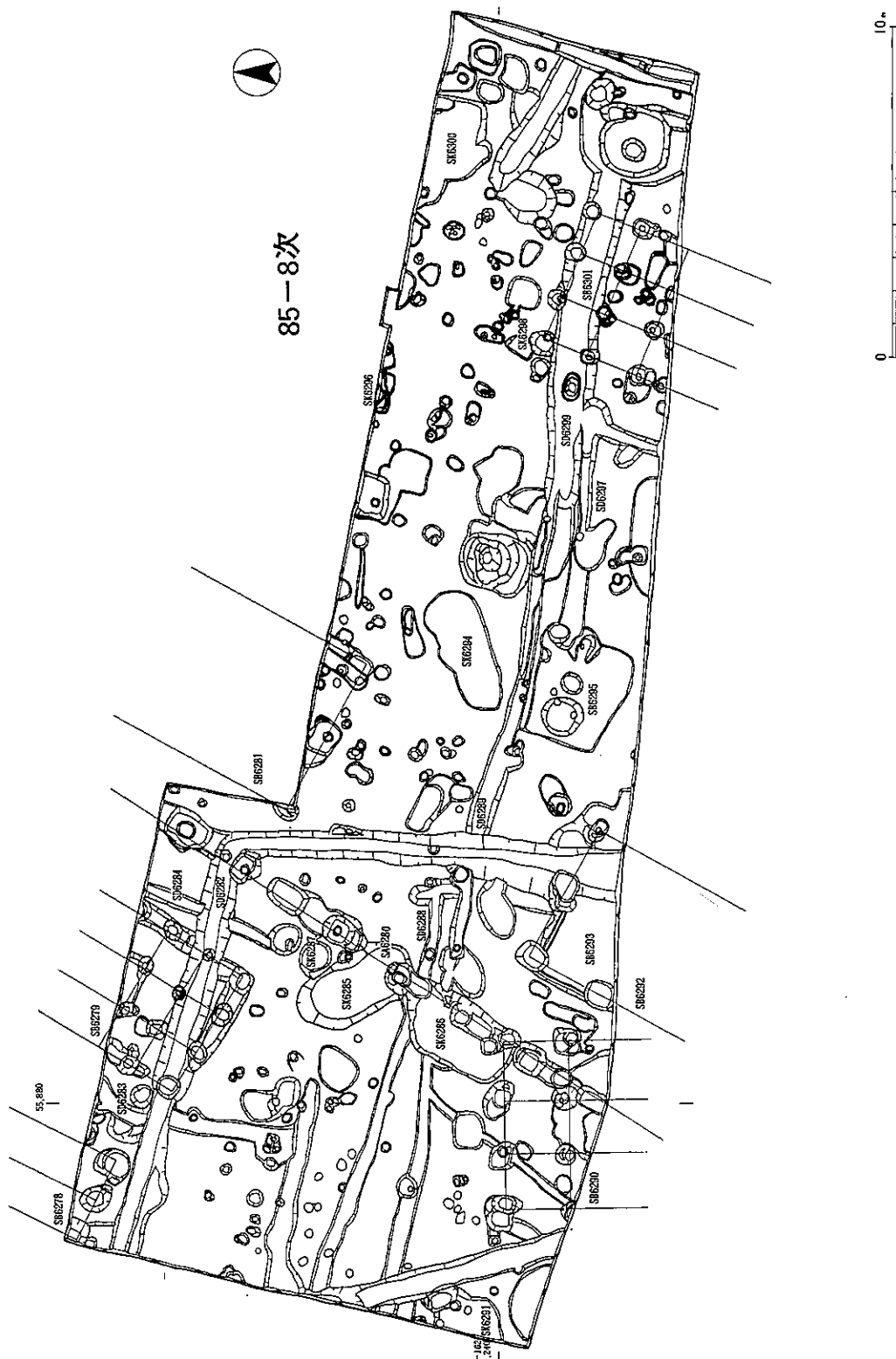


fig. 9 遺構実測図 (1 : 200)

3間×3間の総柱建物であると考えられる。前述以外の掘立柱建物には、S B 6278・6281・6290・6292・6301がある。なかでも、掘立柱建物S B 6279は、柱掘形が一辺約1.0mでS A 6280と同じく布掘状を呈する。柵列S A 6280との新旧関係は、S A 6280→S B 6290である。これら掘立柱建物は出土した遺物があまりにも細片のために詳細な時期決定の材料を欠く。

飛鳥時代の竪穴住居S B 6295は、調査区中央部やや南よりで検出した。規模は3.3m×2.9m以上で、カマドは東壁で確認できた。また、この竪穴住居のカマド内部には扁平な川原石を用いた支柱石が据えられていた。

調査区西部で検出した土坑S K 6285・6286は、ともに楕円形を呈し、規模はS K 6285が長径3.8m、短径1.8m、深さ0.5m、S K 6286が長径3.3m、短径1.9m、深さ0.4mである。この二つの土坑からは弥生時代の甕・壺・石器類（楔形石器・打製石斧・剥片）などの比較的まとまった遺物が出土した。この調査区から出土した弥生時代の遺物は、付近の同時期の遺構のある古里D地区、金剛坂遺跡、第58—4次調査区から出土した弥生土器とほぼ同様のものと考えられ、前期後半、第I様式の新段階の新しい部分に比定できる。

調査区東方隅で検出した古墳時代後期の土坑S K 6300からは比較的良好な状態で土師器甕・壺・高杯などが整理箱にして約2箱分出土した。S K 6300は遺構の北側が調査区の外にのびていくため、正確な規模はわからないが、検出した部分では長径3.6m、短径1.6mである。

ほかに検出した土坑には、弥生時代前期の土坑S K 6294・6296、中期の土坑S K 6287、後期の土坑S K 6298、飛鳥時代の土坑S K 6291がある。

今回検出した溝は（S D 6282～6284・6288・6289・6297・6299）、すべて鎌倉時代～室町時代のもので、なかでも調査区西部で検出した鎌倉時代の溝S D 6282と調査区のほぼ中央を東西方向に走るS D 6289は共に比較的多くの土師器杯・鍋類を出土した。

最後に、今回の調査で検出した飛鳥時代の柵列S A 6280と近鉄線を挟んですぐ南側で確認されている飛鳥時代の柵列S A 4281・4282（第58—6次調査）との関連性であるが、柱通りの方向がS A 6280がN33°E、それに対しS A 4281・4282がN1°Eとなっているため、現段階としてはまったく別のものであると言わざるを得ない。しかしながら今回確認した飛鳥時代の柵列、それに伴う可能性のある建物は齋宮跡の奈良時代以前を考える上で良好な資料であると言えよう。

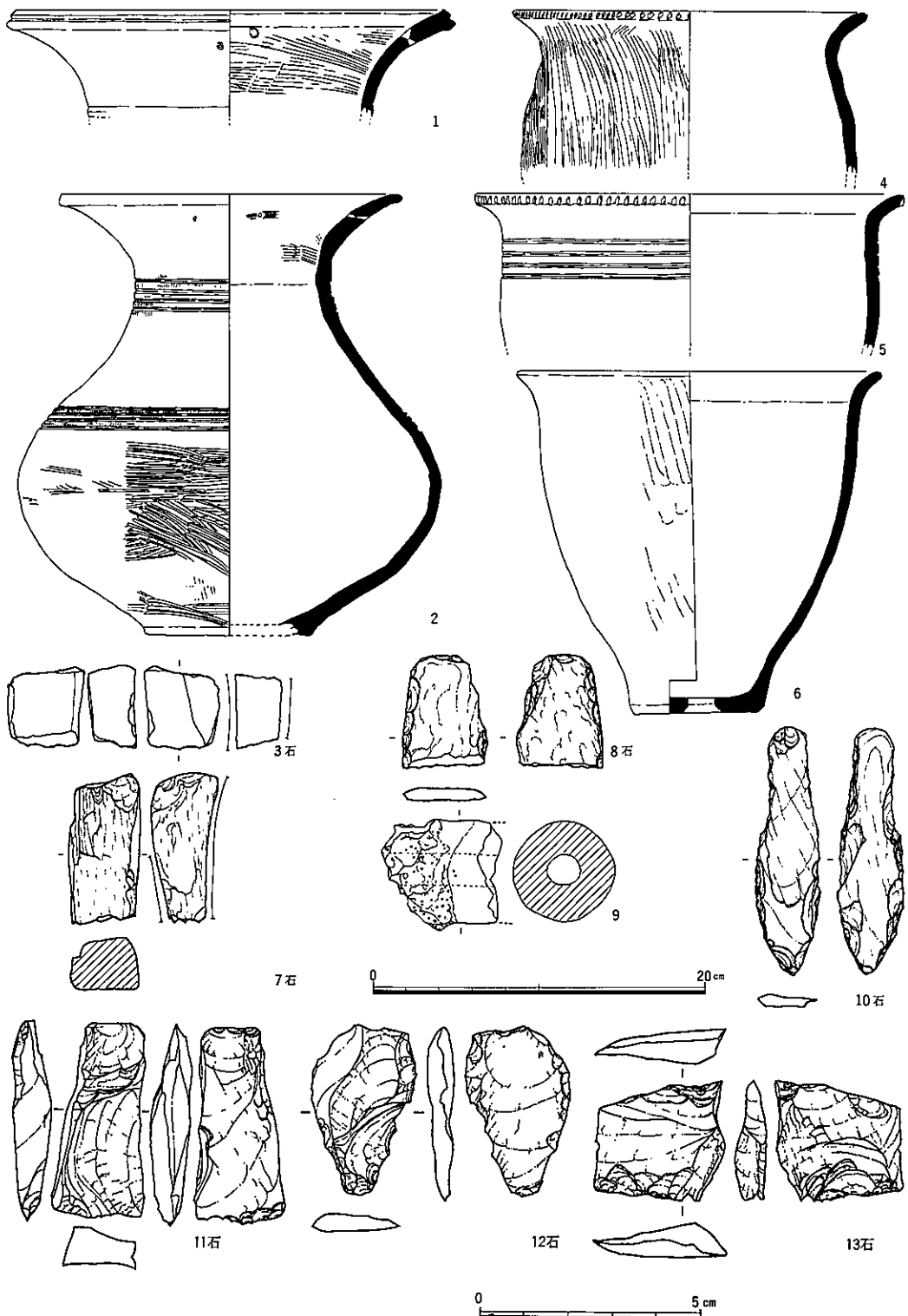


fig.10 第85—8次遺物実測図 S K 6285 ; 1・2・13、S K 6286 ; 3・4、S D 6282 ; 7~9、
S K 6291;10、S K 6294 ; 6・11、包含層 ; 5・12
(1~10は1 : 4 11~13は2 : 3)

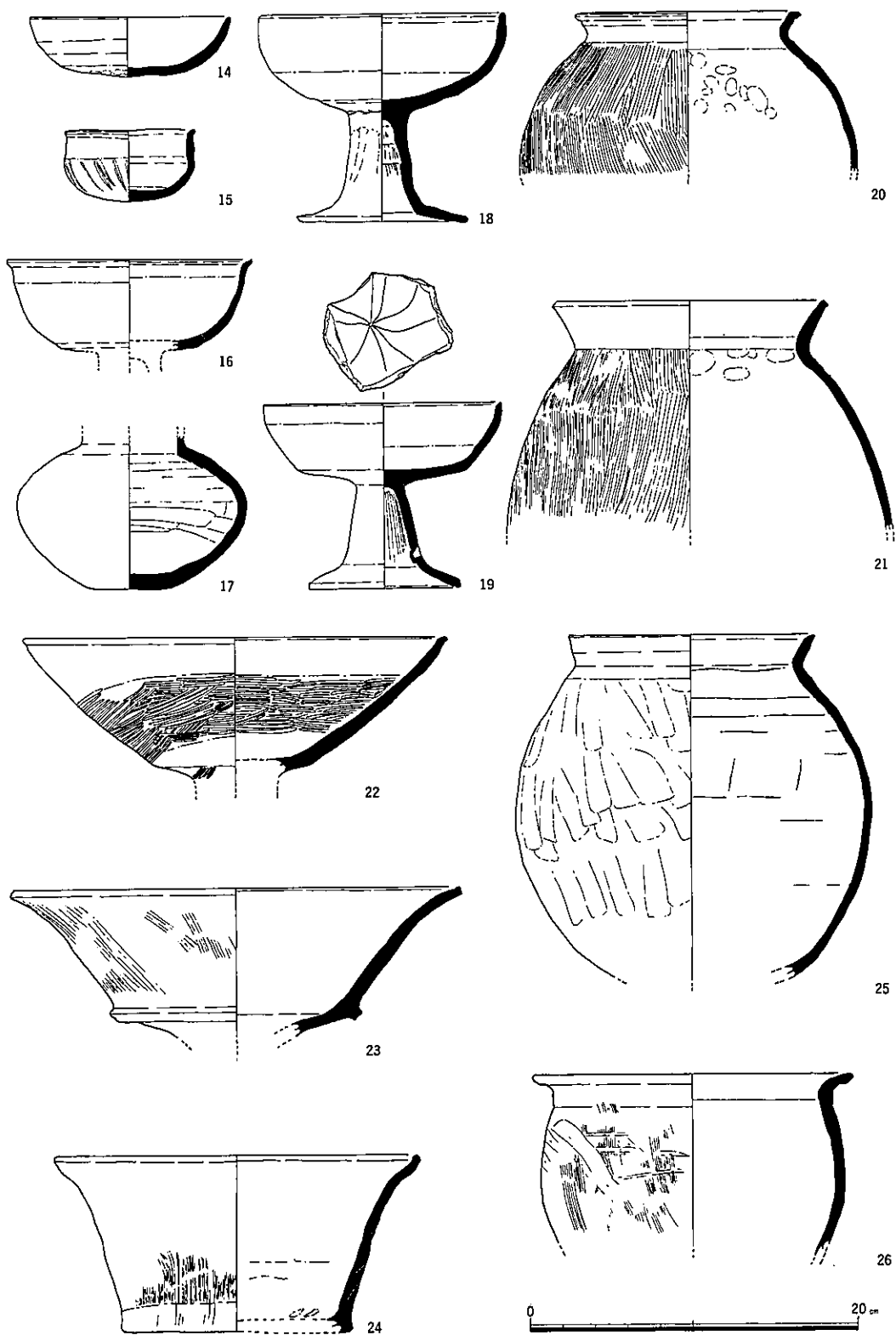


fig.10 第85—8次遺物実測図 S D 6282 ; 14·15、S D 6284 ; 16、S K 6300 ; 17~21
 S K 6298 ; 22、S B 6295 ; 23~25、S K 6285 ; 26

付. 現状変更等許可申請と立ち会い調査

平成2年度現状変更等許可申請は、58件、その内9件（計画調査3件を含む）の発掘調査を実施した。しかし、住宅密集地の宅地敷地内における増築、改築など比較的小範囲であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないと考えられるものがほとんどであり、その場合、条件付き許可の指示に基づき齋宮歴史博物館調査課と明和町教育委員会職員とが、基礎掘削工事の立ち会いを実施している。

今年度の申請の状況は、一覧表のとおりである。これらの申請は、(A)個人によるもの、(B)生活環境整備に伴う公共的機関によるもの、(C)史跡整備等に伴う公共的機関によるもの、(D)計画的な面調査を実施するためのものに分けることができる。

(A) 個人による申請

個人による申請は31件、内4件は保存管理計画の第3種保存地区内で事前調査を必要とし、調査結果に基づいて許可されている。他の27件については、第4種保存地区にあたり、住宅、倉庫の増築や改築をするものである。これらは、着工時に立ち会いを実施するという条件付きで許可されており、その状況は、基礎の掘削の深さが盛土内でおさまったり、わずかに排土の中から土器片を表採するものもあるが地下遺構まで達せず、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

(B) 生活環境整備に伴う公共的機関による申請

本年度は18件の提出があり、その内容は、道路の改修、道路側溝・排水路の新設または改修が6件、水道管の埋設が2件、電柱の立て替えまたは移設が5件、近鉄齋宮駅の施設整備に伴うものが2件のほかボックス公衆電話、防火水槽、農業用水源井戸の設置などがある。これらの中で事前調査を必要とした2件以外は立ち会いで着工している。

水道管理設の立ち会いは、掘削幅も60cmと狭く、特に通行量の多い県道、町道であったため危険であったが、掘削場所にはすでに旧電話線のケーブルが埋設され、攪乱されていた。しかし、一部遺構を確認した箇所については、簡単な調査をおこない埋管の深さを変更して遺構を保存した。

また、電柱については、深く埋め込むものであるが、ドリル状の機械で直径50cmの穴をあけるもので、遺構、遺物は確認されなかった。

(C) 史跡整備等に伴う公共機関による申請

本年度は、6件が提出され、その内容は台風や老朽化のために壊れた案内板の改修や齋宮歴史博物館へ自動車を誘導する標識が4件、散策道などへの植栽が2件ある。これらは、既

設の基礎を再利用したのもあり、地下遺構に影響を及ぼすものではなかった。

(D) 計画的面調査のための申請

これは、三重県教育委員会が実施するもので、本年度は3件（第86次～第88次調査）あり、4,280㎡が調査された。その調査概報は、斎宮歴史博物館から発行される。

現状変更等許可申請一覧表

申請地	区分	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	備考
1 斎宮2678外2筆	D	三重県教育委員会	計画的面調査	2.4.6	2.5.21	1,800㎡	第86次調査 (西加座地区)
2 斎宮3136-3	A	山路 篤	個人住宅の新築	2.4.18	2.5.25	82.67㎡	
3 斎宮116	A	近田 信二	倉庫の改築	2.4.19	2.6.11	98.39㎡	
4 竹川270	A	中村 憲生・育子	個人住宅の改築	2.4.27	2.6.11	116.42㎡	
5 竹川503	B	N T T 伊勢志摩	ボックス公衆 電話設置	2.4.27	2.5.7	1.8㎡	
6 斎宮地内	B	中部電力(株)	電柱の立替、 アース線埋設	2.5.14	2.5.28	2本	
7 竹川256-3	A	辻 久夫	個人住宅の増築	2.5.16	2.6.6	16.021㎡	
8 竹川352-1	A	永田 貞夫	個人住宅の増築	2.5.16	2.6.6	48.83㎡	
9 竹川234	A	島村 紀久子	農業用倉庫及び 個人住宅の改築	2.5.25	2.6.27	98.91㎡	
10 斎宮地内	B	中部電力(株)	電柱の立替え	2.5.28	2.6.11	1本	
11 斎宮3020-5外 7筆	B	近畿日本鉄道(株)	ネットフェンス 柵建植	2.6.19	2.7.18	L=270m	土師器片採取
12 斎宮3351外5筆	D	三重県教育委員会	計画的面調査	2.6.25	2.8.3	1,670㎡	第87次調査 (塚山地区)
13 斎宮3279	A	原田 貞由	個人住宅の新築	2.6.26	2.10.4	291.862㎡	第85-2次調査
14 斎宮599	A	中山 繁	農業用倉庫の 増改築	2.7.4	2.8.24	74.54㎡	
15 竹川453-9	A	島村 元巳	個人住宅の増築	2.7.16	2.8.4	32.8㎡	
16 竹川573-1	A	永納 一義	盛 土	2.7.16	手続き中	104㎡	第85-4次調査
17 斎宮地内	B	明和町(建設課)	町道側溝の 新設	2.7.25	2.8.18	L=89m	
18 斎宮2363-2	A	川合 和男	個人住宅の 増築	2.8.10	2.8.28	44.72㎡	
19 斎宮・竹川地内	B	明和町(水道課)	水道管の埋設	2.8.13	2.10.19	L=1,550m	一部遺構検出したため 埋管の深さ変更
20 斎宮582-2	A	林 武彦	倉庫の増築	2.8.23	2.9.10	65.70㎡	
21 斎宮地内	A	森下 正和	排水管の布設	2.8.23	2.10.4	L=6m	
22 斎宮2735外1筆	D	三重県教育委員会	計画的面調査	2.8.22	2.10.1	1,300㎡	第88次調査 (鍛冶山地区)
23 竹川地内	B	明和町(水道課)	水道管の埋設	2.8.22	2.10.26	L=110m	一部遺構検出したため 埋管の深さ変更
24 竹川地内	B	明和町(建設課)	町道側溝の新設	2.9.4	2.9.17	L=48m	第85-3次調査
25 斎宮2338-2外 1筆	A	竹内 正行	個人住宅の改築	2.10.1	2.11.1	140.77㎡	
26 斎宮109	A	富山 高	個人住宅の改築	2.10.1	2.11.16	111.04㎡	

	申請地	区分	申請者	変更内容	申請日	許可日	変更面積	備考
27	斎宮地内	B	明和町(建設課)	下排水路新設	2.10.5	2.11.16	L=140m	
28	斎宮地内	B	中部電力(株)	電柱の立替	2.10.9	2.11.1	4本	
29	斎宮3032-1	A	澄野 衛	物置の増築	2.10.19	2.11.16	31.47㎡	
30	斎宮331	A	大西和夫	個人住宅兼納屋の改築	2.10.22	2.12.13	109.31㎡	
31	斎宮2399-4	A	岡田節郎	個人住宅の改築	2.10.23	2.12.13	114.07㎡	
32	斎宮3031	A	山本輝雄	倉庫の改築	2.10.23	2.12.13	98.40㎡	
33	斎宮地内	B	中部電力(株)	アース線の埋設	2.10.25	2.11.16	3本	
34	斎宮2658-3外1筆	B	明和町(総務課)	防火水槽の設置	2.12.13	手続き中	52㎡	第85-6次調査
35	斎宮2395-9	A	北野信章	個人住宅の改築	2.12.27	3.2.22	130.83㎡	
36	斎宮115	A	西山嘉治	住宅・農業用倉庫改築	3.1.5	3.2.22	140.88㎡	土師器片採取
37	斎宮3020-6外13筆	B	近畿日本鉄道(株)	クラッシュラン敷設	3.1.5	3.2.22	3,765㎡	
38	竹川247-2	A	根子 勝	個人住宅の新築	3.1.14	3.2.22	104.75㎡	
39	斎宮地内	B	中部電力(株)	電柱の移設	3.1.9	3.1.28	1本	
40	竹川453-1外4筆	C	明和町(産業振興課)	観光案内標識の設置	3.1.17	3.1.28	5基	
41	斎宮34-1外1筆	A	乾 秀 治	物置兼車庫の増築	3.1.31	3.3.8	90.27㎡	
42	斎宮竹神社前	B	三重県(松坂土木事務所)	県道側溝の改修	3.2.6	3.3.6	L=8.0m	
43	竹川467-469	B	三重県(松坂土木事務所)	県道側溝の改修	3.2.6	3.3.6	L=46.2m	
44	斎宮3072	C	三重県教育委員会	看板の設置	3.2.7	3.3.15	3㎡	
45	斎宮地内	C	明和町教育委員会	案内板改修	3.2.15	3.3.6	5基	
46	斎宮3276-3外1筆	A	中瀬 圭 二	個人住宅の新築	3.2.14	手続き中	88.60㎡	第85-7次調査
47	竹川272-1	A	小林万高	個人住宅の改築	3.2.16	3.3.28	102.88㎡	
48	斎宮地内	C	明和町教育委員会	散策道の植栽	3.2.16	3.3.6	L=400m	
49	竹川古里地内	B	明和町(建設課)	既設道路の改修	3.2.16	3.3.6	L=15m	
50	斎宮95-8	A	川本 航 一	個人住宅の増築	3.2.20	3.3.12	9.83㎡	
51	竹川427-1	A	小林文男	耕土の天地返し	3.2.19	手続き中	752㎡	第85-8次調査
52	斎宮3379-4	C	明和町教育委員会	アジサイの仮植	3.2.22	3.3.18	1,041㎡	
53	斎宮2885-2	A	中谷俊男	個人住宅の新築	3.2.27	手続き中	125.87㎡	
54	竹川461-4	A	西川大木	個人住宅の改築	3.2.27	3.3.4	106.565㎡	
55	斎宮327	A	山路敏行	個人住宅の増築	3.2.28	3.3.4	11.21㎡	
56	斎宮3389-10外2筆	A	竹内繁夫	農舎併用住宅の増築	3.3.1	手続き中	34.78㎡	
57	竹川521-5	B	坂本自治会	農業用水源井戸の設置	3.3.13	3.3.28	0.79㎡	
58	斎宮3043-5	C	明和町(産業振興課)	案内板の改修	3.3.12	3.3.28	1基	

圖

版

PL1



第85-2次調査（南西から）



第85-3次調査（西から）



第85-4次調査（東から）



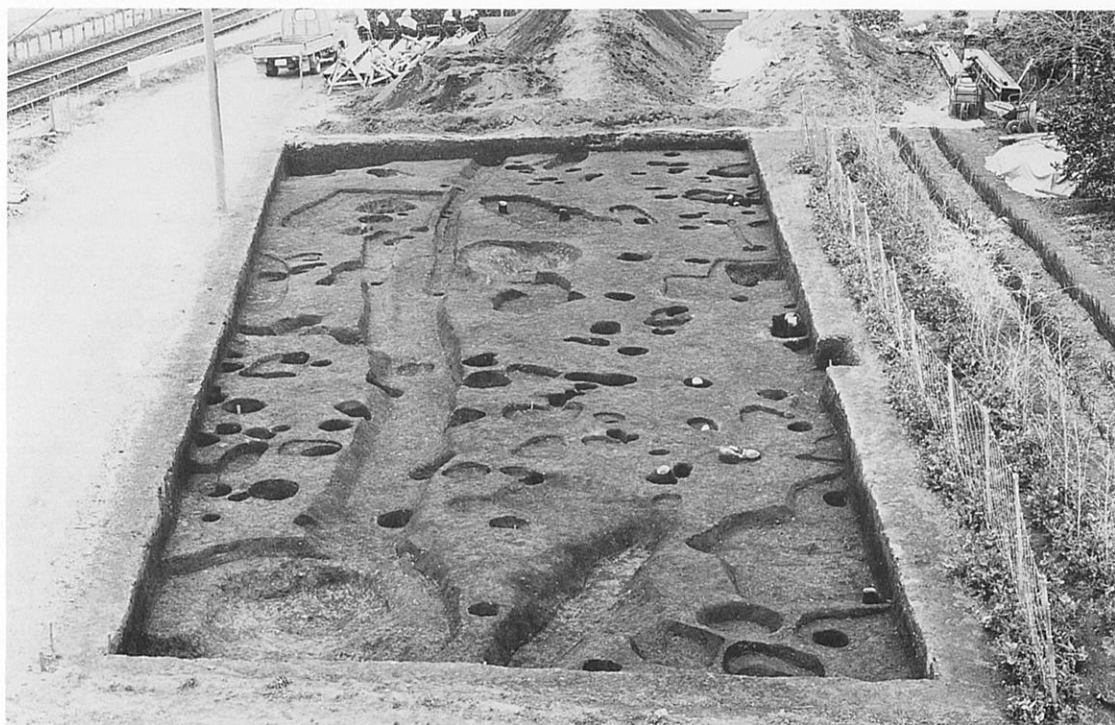
第85-5次調査（南から）



第85-6次調査（北から）



第85-7次調査（南西から）



第85—8次調査 西調査区（東から）



第85—8次調査 東調査区（東から）

PL5



第85-8次調査 S A 6280 (南から)



第85-8次調査 S B 6279 (南から)

史 跡 齋 宮 跡
平成2年度現状変更緊急発掘調査報告

平成 3 年 3 月 31 日

編 集 齋 宮 歴 史 博 物 館
明 和 町 教 育 委 員 会
発 行 明 和 町 教 育 委 員 会
印 刷 光 出 版 印 刷 株 式 会 社
